

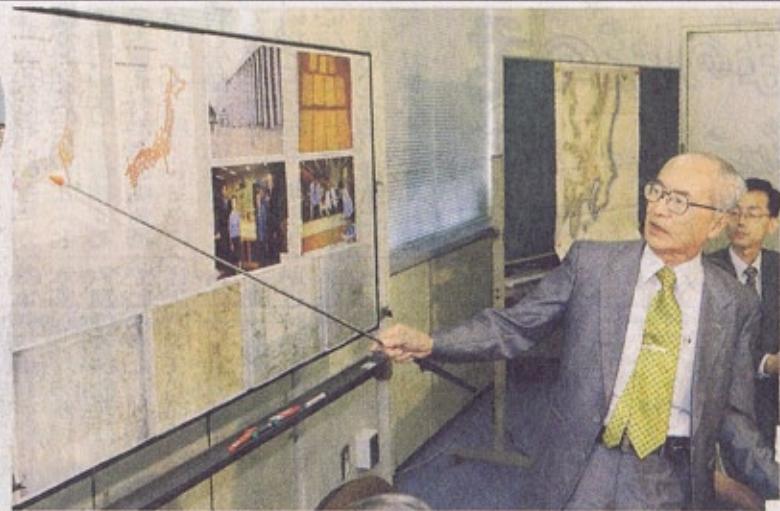
発見された「大図」について説明する渡辺一郎さん＝4日午後、東京都千代田区で



江戸後期の測量家・伊能忠敬(1745—1818)が製作した日本地図(伊能図)の写し206枚が、米国・ワシントンの議会図書館で発見された。その多くは日本国内に現存せず、散逸したと考えられていた貴重な史料。4日、発見報告の記者会見に臨んだ関係者は「未発見だった地域の写しが多数含まれ、ほぼ全国を網羅できる。歴史的価値は高い」と意気軒高。100年以上の時を超えて消息判明した伊能図は何を物語る?



# 伊能図206枚発見



「伊能図の全容が明らかになり、忠敬の残した測量日記と照らし合わせれば、当時の測量の様子も詳しく分かるはず」

常任委員(六二)と日本地図  
センター・永井信夫理事  
(五三)も「百年以上埋もれ  
ていたのが見つかり、驚  
くばかり」などと口々  
に。

年間、測量を続けた。  
米国で発見された二百  
六枚は「大図」の写し。大  
図とは、縮尺三万六千分  
の一で、全三百十四枚と  
される。

分かることの多いもの。今日の発見分と以前の発見分を除くと、未発見の大岡の写しは六枚（北海道・函館・静岡・沼津など）を残すのみ。

渡辺さんは四、五年前から「米国やロシアにも伊能図の写しがあるはず」といっていた。

小川和彦さん(22)

〔忠敬が考案した半位盤定器・半円力位盤〕  
當時の測量作業を描いた  
「夜中測量之圖」。右側の赤い敷物に座り明かりを持つて  
いる人物が忠敬ともいわれる。

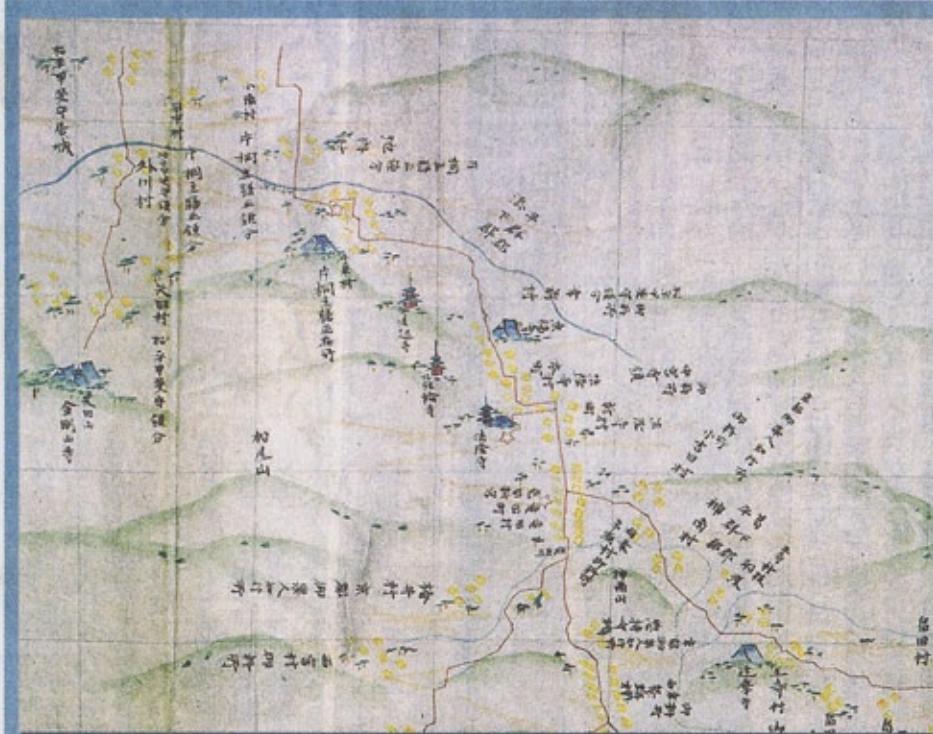


〔忠敬が考案した方位盤定器「半円方位盤」〕当時の測量作業を描いた「夜中測量之図」。右側の赤い敷物に座り明かりを持つてゐる人物が忠敬ともいわれる。



卷之四

米で研究者 江戸列島“網羅



上 初めて発見された奈良周辺の拡大図。中央に法隆寺など寺社が描かれ、山々も着色されている。国内で発見済みの江戸の地図も含まれていた。深川（中央左）は忠敏の江戸での住まいがあったという

以前、小図の写しが英國で見つかり、中図の写しはフランスとイタリアで発見されていたため、状態も良かつた。折り畳まれた大図は、広げると畳一畳大(約九〇×約一八〇cm)。保存

で悲願の地図を発見。一  
発で出てきてピックリ』  
管理者の地図部長も『日  
本に残っていない日本地

渡辺さんは四、五年前から「米国やロシアにも伊能図の写しがあるはず」といっていた。

03(5461)8030 FAX 03(5461)8033

四れ目 しなにの地を接続し、徹

渡辺さんは四、五年前から「米国やロシアにも伊能図の写しがあるはず」とうんでいた。今年三月末、所用で渡米した際、「ちょっとのぞくか」と軽い気持ちで訪れた議会図書館の地図部で、悲願の地図を発見。「二月で出てきてピックリ」「本に残っていない日本本地図だ」と聞いて驚いた。折り畳まれた大図は、広げると畳一畳大(約九〇×約一八〇cm)。保存状態も良かつた。

(明治十二)年ごろの旧陸軍の記録に「伊能図を写した」とあると話す。大図の北海道の部分に「第七軍管」と書かれていたことから、軍が用済みとした大図が何らかの理由で流出したとみる。一方で、「政府による払い下げ説」も消えない。いずれにせよ、流出時期は明治初頭から一八九七年の間か。

渡辺さんは「今回の地図は保存用ではなく、(縮尺変更)作業用の写し。もつときれいな(着色された)伊能図がまだ米国にあるんじゃないかな」と期待を膨らませる。

今後は、日本の古地図を所蔵する米国の博物館や美術館などの目録をインターネットで調べる一方、今回発見された伊能図の展示を目指す。「現物を借りるか、色のない部分に色を塗った完全複製を作り、みなさんに見せたい」(渡辺さん)。

今秋、原寸の中図を分割し、並べた見開きの地図帳も発売される。「伊能図は後世への贈り物。『うちの村も通ったんだ』と、忠敬を身近に感じてもらいたい」と渡辺さん。いつか、大図を地図帳にして、手に取って見られるようにするのが、「夢」という。